

私の博物誌

題字 石川進

第十四回 「陶郷にて」(後)

数年前のことになるが、日曜美術館で取り上げ放映した女流陶芸家がかつて居られた。

居られた、というのは既に鬼籍に入られているからである。一九九五年四月一日、二十年に近い昔、既に亡くなって居られた。「ルーシー・リー」が彼女の名で、九十三歳の長命を与えられての生涯だった。日曜美術館の放送後、すぐ益子へ向かったのだ。しかし、作家は既に亡く、十五年余の月日が、私の無知と共に過ぎ去っていたのだ。この折の焦燥感は、一九七九年、田中一村が「黒潮の画家」として放送された時の悔しさに似ていた。

一九九〇年代の初めに出来た「陶芸メッセ益子」の会場は、さ程大きなものではないのだが、何度訪れても失望させられたことがないのが嬉しい。確実な眼による的確な人選は、観者に無言の説得力がある。「ルーシー・リー」の作品には過去に私が聞き齧ったどの傾向にも迎合せず、彼女

独自の趣が凛然としてそこに在る、と思わせられる「気」は、観る者をやわらかく包み込み、釉薬の新鮮さ、形の斬新さは魅力的で品格が高く深く深く頭の下がる思いだった。

私の不勉強がそうさせるのだが、亡くなった後の作家に巡り合うことが多いのは無念だ。

もう一人、特に心を動かされた陶芸家が居られた。やはり一九八三年に四十九歳の若さでこの世を去っている「加守田章二」という岸和田市出身の陶芸家だ。この世を去られて二十年余りが過ぎてしまったころ、これは奇蹟のような偶然を経験した。

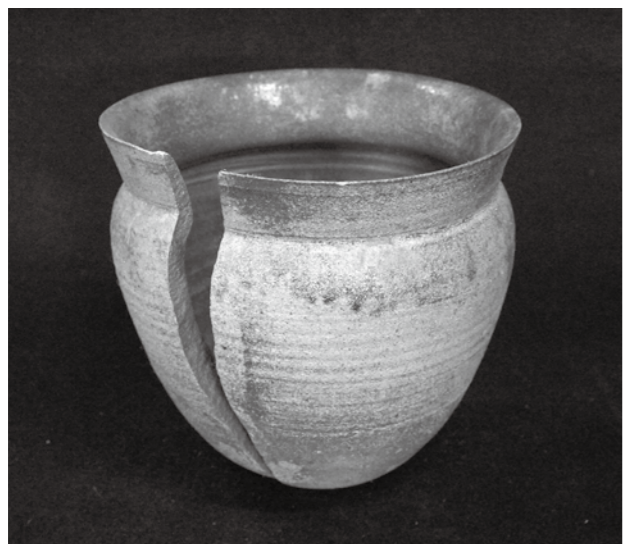
十年程になろうか、古物を扱っている店が益子に在り、何度か入って素見したり、茶を馳走になったり、物を見せてもらったり、あるいは時に値頃のものを買って帰ったりなどして、帰って来るのを楽しんで来たところがあった。ある日のこと、がらくたの山の向こう側

で、かすかに西陽の当たる割れた大ぶりの焼き物が目に飛び込んで来た。飛び込んだというよりは射られた、という方が実際に近い。薄くなっている髪の毛が、逆立つような感覚を覚え、近くに寄ると轆轤の芯から口縁迄、一直線に割れている。というより切れているといった調子で、一方のみにかかる火の力によって収縮率が片寄ること、一気に割れたものだと思われた。

作家は捨てることが出来ず、愛好家に進呈されたものだった。收藏家が死去し、今朝持ち込まれたものだと事。何とか手に入れ、日夜創ること、壊すことをこの作品から汲み取ろうと腐心する。この花器は語るのだ。「お前さんはお前さんを創りなさい、しかし、お前さんを壊しなさい」と。大作家の存在を知らずに居て、物陰から見えたわずか一寸程の割れ口が語った言葉を聞き取ることが出来たことは大変な幸福だ。予備知識を持たずに加守田章二の言葉を聞き取ることが出来たことは、今の私の心の宝だ。



ルーシー・リー 「ピンク線文鉢」



加守田章二 「花器」



書いている人

石川進

いしかわ・すすむ

一九四二年、いわき市平生生まれ。石川紋店代表。家業のかたわら、幼少から書に親しむ。書の世界で培った点・線・面と墨・紙・水の生理を追求し、石刻による印とのコラボによる抽象、具象の絵画表現を展開。書道史学会会員、書法探求顧問

新聞、社内報、パンフ、チラシなど
各種印刷物の編集・制作
自分誌・記念誌等の書籍類
会社案内などのDVD制作も

株式会社 いわきジャーナル
月刊 **いと** ますはお電話から
0246-29-2424

〒971-8141
福島県いわき市鹿島町走熊字小神山29(ヤスミツ第1ビル2-A)

スタッフ募集

■募集職種・人数
管理栄養士、栄養士……………若干名
調理師、調理補助……………若干名

■応募資格・条件／経験者優遇

■応募方法／電話連絡のうえ、履歴書送付 ※委細面談

●お問い合わせは…
株式会社 テンミールIWAKI
〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾52-2 第一すすビル203号
TEL.0246-68-8254 / FAX.68-8268

故人を送る厳粛な儀式。祈る心を真心こめて
やすらぎの杜遠野がお手伝い致します。

■法事会館及びホール

やすらぎの杜 遠野
〒972-0161 いわき市遠野町上遠野字赤坂27-1
TEL.0246-89-4777